

# 特別支援教育 3・5・6 学年 国語科学習指導案

指導者 触 沢 広 乃

## I 単元名

「ひつような じょうほうを でんわできこう つたえよう 」(話すこと・聞くこと)

## II 単元の指導構想

### 1 単元について

本学級は、3年生2名、5年生2名、6年生1名の計5名で編成されている。  
本学級に在籍する子どもたちの「話すこと・聞くこと」にかかわる実態について、担任及び子どもたちの学習にかかわる教職員、保護者による日常観察、本校特別支援教育学団の「行動特性チェックリスト」、「国語科指導系統表」、各種検査から、次のように捉えた。

子ども		「話すこと・聞くこと」にかかわる実態 (日常観察)		
		話すことにかかわる実態	聞くことにかかわる実態	話し合いにかかわる実態
A (3年)	特	大人に対して丁寧な言葉で話すことができる。 語彙が少なく、決まった言い方で話しかけたりほめたりする。 教師に対して質問や要求をすることができる。 相手の様子や状況を気にせず話しかける。 明るく大きな声で話すことができるが、ボリュームの調整が困難。教師に対して質問や要求をすることができる。	相手の話に関心をもつことができる。 語彙が少なく、話の意味を理解していないことがある。 話したことについて、同じことを何度も繰り返し質問する。	自分の考えをつぶやき、挙手をしてはなすことができる。
	交	友達に挨拶をすることができる。 友達に話しかけることはほとんどない。	そわそわしながら聞くことがある。 話の内容を理解していないことが多い。	自分の考えを話すことができる。
	保	自分の思いを適切な言葉で表現することが苦手である。 テンションが上がると声が大きくなったり、話が止まらなくなったりする。	人の話を最後まで落ち着いて聞くことができないことが多い。	積極的に自分の考えを話す。
B (3年)	特	発表の際にふらつき、動きながら話す。 急に話題がふられると、考えるのに時間がかかる。 慣れている友達や教師に話をするのが好きで、自分の知っていることや好きなことを嬉しそうに話し続ける。 大人に対して丁寧な言葉で話すことができる。	自分に関係がない話は関心をもって聞こうとしない。 何かを触ったり動いたりしながら聞く。 話の途中で気になることがあると、途中で質問をする。 相手の話の途中で、中心内容に直接関係しない話をし出す。	友達の考えを聞き取りながら話し合うことに課題がある。
	交	交流学級の友達の話しかけに対して答えることができる。 慣れた友達に質問したり話しかけたりすることができる。 給食時間など、友達との自由な会話を楽めるようになってきている。	教師の話を静かに最後まで聞くことができる。 話の内容を部分的に記憶できる。 物や手をいじって聞くことがある。	自分の考えを発表することはあまりない。
	保	話の構成に順序がなく、話の内容が伝わりにくい。 相手を見ながら発表をすることが苦手である。 話したい気持ちが強くと、最後まで聞いてもらえないと怒る。	聞いたことをすぐに忘れてしまう。	自分の思いが強く、考えのやり取りはできていない。
C (5年)	特	友達や教師に話しかけ、質問や要求を伝えることができる。 友達や教師からの質問の内容を理解し、返答することができる。 話す内容が決まっている場合、堂々と発表することができる。 正確な一問一答ができる。	他のことに気をとられて指示を聞いていない時がある。 注意を引き付けることで、相手に体や目を向けて聞くことができる。	友達の意見や考えをきいて、自分の考えを振り返ることが少しずつできるようになっている。
	交	教師や友達に自分から話しかけることができる。 大きな声で話すことができる。	話を聞く間、目線が下がったり手いじりをしたりしている。 指示を聞き逃して行動が遅れることがある。	教師に促されて自分の考えを発表することができる。
	保	困ったことを言葉で表現することが苦手である。	話は聞いている様子だが、態度に表れていない。	家庭だと自分の気持ちを強く伝えてくる。
D (5年)	特	早口で話す。語尾が聞き取りにくい。 話したい内容が決まっていたり原稿にまもっていたりすると、自信をもってゆっくと話すことができる。 相手意識が明確であると、自らよい話し方を考えて話すことができる。	興味があること、必要感があることは注意して聞き、覚えておくことができる。 話の途中で気になることがあると、話の終わりまで我慢できず、尋ねてしまう。	友達の意見を聞いて、賛成や反対の意見を話すことができる。
	交	興味のある話題について、教師や友達に話すことができる。 友達との会話のやり取りの中で、自分の考えを修正することができる。 「～ですよね?」と相手の理解を確認しながら話すことができる。	交流学級の友達(5年生)の話の内容を理解して聞くことができる。 姿勢を崩して聞くことが多い。	交流学級の友達の前でも自分の意見を自信をもってはなすことができる。
	保	知らない人と話す時には緊張してもじもじする。 自分の話したいことを話し続けるが、相手のよくわからない話題の時が多い。	周囲の声や音に敏感で気が逸れやすい。 最後まで相手を見て話を聞くことができない。	納得するまで質問をしてくる。
E (6年)	特	慣れた場所や人に対して、明るい表情で話しかけることができる。 定型的な表現の場合、一人でも大きな声で発表することができる。 大人に対しても常体で話すことが多い。	注意を喚起することにより、顔や目を向けて最後まで聞くことができる。 質問の内容を理解できずに困ることがある。	友達の意見を聞いている。興味を向いた内容について、自分の意見を話すことができる。
	交	全体発表の際に自分のセリフを大きな声で発表する。 手を挙げて発表することはない。 教師や友達に話しかけられた際に、答えることができる。	長い時間でも最後まで聞くことができる。 語彙が少なく交流学級の友達(6年生)の話の内容を理解できないこともある。	自分から意見を話すことはあまりない。
	保	慣れない場所で、もじもじしたり親を介して話そうとしたりする。	聞いたことを理解していないことがある。	話し合いの経験が少ない。

国語  
社会  
算数  
理科  
生活  
音楽  
図画工作  
家庭  
体育  
外国語  
道徳  
総合  
特別活動  
特別支援

### 行動特性チェックリスト

領域		下位項目	A	B	C	D	E	具体内容
学びの姿勢	聴覚選択	2	2	2	2	3	1 物音（重要でない細部）などに注意が逸れてしまい、教師の支援により一時的に喚起できる。 2 物音（重要でない細部）などに注意が逸れてしまうが、教師の支援により喚起できる。 3 物音（重要でない細部）などに注意が逸れるが、課題への影響は少ない。 4 物音（重要でない細部）などに注意が逸れずに、課題を捉えることができる。	
	視覚選択	2	2	2	2	3	1 視覚情報（重要でない細部）などに注意が逸れてしまい、教師の支援により一時的に喚起できる。 2 視覚情報（重要でない細部）などに注意が逸れてしまうが、教師の支援により喚起できる。 3 視覚情報（重要でない細部）などに注意が逸れるが、課題への影響は少ない。 4 視覚情報（重要でない細部）などに注意が逸れずに、課題を捉えることができる。	
	聴覚的深さ	1	2	2	3	3	1 聞いたことをすぐに忘れてしまう。 2 聞いたことの一部は覚えているものの、重要情報の欠落や誤選択が見られる。 3 聞いたことを一時的に覚えていることができる。 4 聞いたことを一時的・長期的に覚えていることができる。	
	視覚的深さ	2	2	3	3	3	1 見たことをすぐに忘れてしまう。 2 見たことの一部は覚えているものの、重要情報の欠落や誤選択が見られる。 3 見たことを一時的に覚えていることができる。 4 見たことを一時的・長期的に覚えていることができる。	
	ペース	2	3	3	3	4	1 教師の支援の有無にかかわらず、せつちや過度に遅い取り組みができる。 2 教師の支援により、活動のペースを一時的に修正することができる。 3 教師の支援により、安定した活動のペースにすることができる。 4 常に安定したペースで取り組むことができる。	
	自力	1	3	2	3	3	1 活動への集中のために、教師の支援が常に必要である。 2 教師の支援によって、様々な活動に集中して取り組むことができる。 3 一時的に教師から離れて、様々な活動に集中して取り組むことができる。 4 自ら様々な活動に集中して取り組むことができる。	
	規則性	1	3	3	3	3	1 教師の支援を受けながら決まりきった状況への対応をすることができる。 2 友達とともに、決まりきった状況へ正確に対応することができる。 3 決まりきった状況へ誤りがあるものの対応することができる。 4 決まりきった状況へ正確に対応することができる。	
	困難場面への緊張	2	1	1	1	2	1 困難・葛藤場面で緊張し、行動に反映する。 2 困難・葛藤場面で緊張するが、教師の支援により行動への反映は少ない。 3 困難・葛藤場面で緊張するが、行動に反映しない。 4 困難・葛藤場面で緊張しない。	
	集団への緊張	2	2	2	3	3	1 集団内で緊張し、行動に反映する。 2 集団内で緊張するが、教師の支援により行動への反映は少ない。 3 集団内で緊張するが、行動に反映しない。 4 集団内で緊張しない。	
	場所への緊張	1	2	2	2	2	1 特定の場所や慣れない場所に緊張し、行動に反映する。 2 特定の場所や慣れない場所に緊張するが、教師の支援により行動への反映は少ない。 3 特定の場所や慣れない場所に緊張するが、行動に反映しない。 4 どのような場所でも緊張しない。	
目的意識	想起	3	3	3	3	3	1 体験（成功・失敗・懲罰）を思い出せない。 2 教師の支援により体験を振り返ることができるが、活動に生かすことができない。 3 教師の支援により体験を振り返ったり、活動に生かしたりすることができる。 4 自ら体験を生かすことができる。	
	学習目的	2	3	3	4	3	1 教師の支援を受けても、目的や楽しみを見出すことができない。 2 教師の支援により、活動中あるいは活動後の楽しみを見出すことができる。 3 教師の支援により、目的や楽しみを見出すことができる。 4 自ら目的や楽しみを見出すことができる。	
	生活	3	3	3	3	3	1 学習内容にかかわる生活体験やニーズがない。 2 学習内容にかかわる生活体験やニーズが以前にある。 3 学習内容にかかわる生活体験やニーズがある。 4 学習内容にかかわる生活体験やニーズがあり、自ら問題意識をもっている。	
意味付け・価値付け	生活への意味付け	2	2	2	2	2	1 教師の支援があっても、生活とのかかわりを意識することができない。 2 教師の支援により生活とのかかわりを意識し、それに応じた行動をすることができる。 3 自ら生活とのかかわりを意識することができるが、そぐわなかったり活動が伴わなかったりする。 4 自ら生活とのかかわりを意識し、それに応じた活動や用意をすることができる。	
	活動への意味付け	2	3	3	3	3	1 教師の支援による結果予測を理解することができない。 2 教師の支援による結果予測に応じて、活動することができる。 3 自ら結果を予測するが、そぐわなかったり活動が伴わなかったりする。 4 自ら結果を予測し、それに応じた活動や用意をすることができる。	
	活動への価値付け	1	2	2	3	2	1 教師の支援により、一つ一つの活動に取り組むことができる。 2 教師の支援により、次なる活動を念頭に置きながら、目の前の活動に取り組むことができる。 3 教師の支援により、複数の活動への価値を感じながら取り組むことができる。 4 自ら、複数の活動を価値付けて取り組むことができる。	
学習方法	問題対応	活動目的	2	3	3	3	3	1 教師の支援を受けても、目的を感じながら活動できない。 2 教師の支援により、目的を感じながら活動できる。 3 教師の支援により、目的を見つけて活動できる。 4 目的から活動を自ら見つけ、持続させながら課題に取り組むことができる。
		確認	1	3	3	3	3	1 しばしば不注意による間違いや失敗がある。 2 時折不注意によるまちがいや失敗がある。 3 不注意による間違いや失敗があるが、本質的なものに支障がない。 4 不注意による間違いや失敗がない。
		手がかりの拡散	2	2	3	4	2	1 教師の支援を受けても、別の方法に取り組むことができない。 2 教師の支援により、別の方法に取り組むことができる。 3 教師の支援により様々な方法を検討し、その中の一つに取り組むことができる。 4 自ら様々な方法を検討し、多様な方法に取り組むことができる。
		手がかりの収束	1	2	2	3	2	1 教師の支援により、よりよい手がかりを受け入れることができる。 2 教師の支援により2つの手がかりを検討したり、試してみたりした結果、一つに収束することができる。 3 教師の支援により様々な手がかりを検討したり、試してみたりした結果、一つに収束することができる。 4 自ら様々な手がかりを検討したり、試してみたりした結果、一つに収束することができる。
		興味	3	2	2	2	3	1 興味・関心のあるものが見当たらない。 2 学習活動以外に有効な興味・関心がある。 3 学習活動に有効な興味・関心がある。 4 学習活動に有効な興味・関心があり、活用したいという意識がある。
	集団との関わり	感情の伝達・理解	2	3	3	3	3	1 文脈や態度を意識した行動（話すことを含む）をとることができない。 2 誇張した文脈や態度のいずれかから感情を理解し、行動（話すことを含む）をとることができる。 3 文脈や態度のいずれかから感情を理解し、行動（話すことを含む）をとることができる。 4 文脈や態度を予測し、行動（話すことを含む）をとることができる。
		協調性	3	2	3	3	4	1 一人での活動に固執する。 2 教師と一緒に活動する。 3 定型的あるいは、教師の支援により他者との活動をする。 4 他者の状況を考え活動と共にし、場合によっては協力する。
		遊び	2	4	3	4	4	1 気に入った物のみを使って遊ぶが、固執したりなめたりし、奇異にみえる。 2 気に入った物のみで、使用目的に合わせて遊ぶ。 3 教師等から提示された物を使って遊ぶ。 4 自分から様々なものに働きかけて遊ぶ。
		ゲーム	4	3	3	3	4	1 教師の支援を受けて、ゲームに参加することができる。 2 教師の支援を受けてゲームに参加し、勝ちを喜ぶことができる。 3 教師の支援を受けて、ゲームの勝敗を意識して参加することができる。 4 ゲームの勝敗を意識して参加し、敗れなくても価値を見出すことができる。
		賛辞	4	2	3	2	3	1 他者のよさを認めることができない。 2 教師の支援により、他者のよさに拍手をおくる。 3 周囲の状況をとらえて、他者のよさに拍手をおくる。 4 自ら拍手あるいは、賛辞をおくる。



- 小学校学習指導要領改訂の経緯及び基本方針を受け、国語で育成を目指す資質・能力は、「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」とある。国語科で身に付ける言語能力は、全ての学習の基盤となり、生活においても必要不可欠な能力である。またこれらの力の内、(話すこと・聞くこと)の力については、人間の多様性や様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことにつながる。例えば子どもたちは、どんな順序で話せば相手に伝わるか、相手はどんな考えをもっていて、自分は、それに対してどう思うのかといった見方・考え方を働かせて他者と関わり、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり適切に表現したりすることで、他者と円満な関係を築き、様々な困難場面で、周りの支援を受けながら、社会的自立していくことができる。以上のことから、自分たちが必要とする情報を他者から聞き出す学習をすることで、相手の立場に立って考えるとどんな話し方をするとよいか、必要な情報をいかに正確に聞きとり生かすかといった視点で物事を考える本教材は、子どもたちがこれまでの経験や推測を基に見方・考え方を働かせ、必要感をもって学習に取り組むことで、自己の資質・能力を高めていくために適した教材であると考える。
- 本領域の学習は、生活単元学習「校内合宿をしよう」の内容と関連している。課題を解決するために様々な要素があるため、学習する上で困難さを感じる領域でもある。そこで、先に述べた子どもたちの実態に応じて、個別の目標を設定し、子どもにあった学習材や学習形態を工夫することで、子ども自身が自己の学びの状況を捉えながら、段階的に学習を進められるようにしたい。また、子どもたちが、主体的に友達とかかわり合いながら学びを深めることができるよう、生活単元学習や実生活と結びつく学習課題の設定やかかわりが必要不可欠な学習展開にしたい。以上のように、子どもたちの実態と「話すこと・聞くこと」の系統性を大切にしながら、単元を通して、実生活と結びつける振り返りを繰り返すことにより、課題を自分事として捉え、連続的な学びへとつながっていくようにしたい。

## 2 復興教育(3つの教育的価値)との関連

- 【かかわる】「⑨自分と地域社会」とのかかわり

相手の立場に立って話をしたり質問をして聞いたりすることで、相手意識をもって人と関わることを学んだり、困ったときに支えを求めることについて学んだりする。

## Ⅲ 単元の指導構想

### 1 目標

子ども	本単元にかかわる実態	本単元で育成する目標 ①知識及び技能 ②思考力、判断力、表現力等 ③学びに向かう力、人間性			実生活とのつながり
		①	②	③	
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師に質問や要求をすることができる。</li> <li>・相手の様子や状況を気にせず話しかける。</li> <li>・明るく大きな声で話すことができるが、ボリュームの調整が困難。</li> </ul>	①	・相手が聞き取りやすい発音や声の大きさがあることが分かる。	集団の前でも、適切な声の大きさを選んで話すことができる。	
		②	・声の大きさを3段階に分け、自分の意志で大きさを調整することができる。		
		③	・口の開きや声の大きさに気を付けて話そうとする。		
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分に関係がない話に関心をもって聞こうとしない。</li> <li>・何かを触ったり動いたりしながら聞く。</li> <li>・話の途中で気になることがあると、途中で質問をする。</li> <li>・相手の話の途中で、中心内容に直接関係しない話をし出す。</li> </ul>	①	・聞き落さないようにするには、必要な情報を、観点毎に短く書き留めるとよいことが分かる。	必要なことを短くメモすることで、忘れずに聞くことができる。わからないことを明確にして問い返すことができる。	
		②	・聞きたいことの中心をとらえ、重要な語句は何かを判断しながら聞くことができる。		
		③	・情報を得るために、相手の話を最後まで集中して聞こうとする。		
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他のことに気をとられて指示を聞いていない時がある。</li> <li>・注意を引き付けることで、相手に体や目を向けて聞くことができる。</li> </ul>	①	・聞き落さないようにするには、必要な情報を、観点毎に短く書き留めるとよいことが分かる。	観点をもつことで、教師や友達が話す連絡事項を集中して聞くことができる。	
		②	・聞きたいことの中心をとらえ、重要な語句は何かを判断しながら聞くことができる。		
		③	・相手の考えや思いを知るために、主体的に話を聞こうとする。		
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早口で話す。語尾が聞き取りにくい。</li> <li>・相手意識が明確で、伝えたいという思いがある時には話し方を工夫して話そうとする。</li> <li>・話の途中で気になることがあると、途中で質問をする。</li> </ul>	①	・目的を伝えたり必要な情報を聞き出したりするために、話題の順番や内容の検討や、話し方の工夫が必要であることが分かる。	相手に何かを伝えようとする時に情報を整理することで、見通しと自信をもって話すことができる。	
		②	・話の構成を確かめながら、情報を整理して話したり聞いたりすることができる。		
		③	・情報を聞き出すために、話すべき内容を整理して考えたり、よりよい話し方で質問をしたりしようとする。		
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慣れた場所や人に対して、話しかけることができる。</li> <li>・定型的な表現の場合、一人でも大きな声で発表することができる。</li> <li>・大人に対して常体で話すことが多い。</li> <li>・「上手に話したい」という願がある。</li> </ul>	①	・正しい文節で句切ったり、大事なことを強調したりして話すことができる。	交流学級や校外学習の場でも堂々と話すことができる。	
		②	・相手に伝えるために話し方を工夫することができる。		
		③	・話したい内容を整理することで、自信をもって話そうとする。		

## 2 学びのつながり

子どもたちはこれまでに、その子どもの実態に応じた内容や話し方で自分の体験を話したり、友達の話聞き、興味のあることを質問したりする学習をしてきた。その際、最後まで話を聞いてもらえると嬉しいことや、話を聞いてもらうためにはよい話し方があること、話を聞くことは自分にとって有益であることなどを感覚的に掴んでいる。

本単元では、「よい話し方や聞き方がありそうだ」といった抽象的な子どもたちの見方・考え方をより具体的にし、話す順序や話す声の大きさ・速さ、聞く際にどの言葉に注目するのかといった見方・考え方を働かせて学習を展開していく。

子どもたちは、今後、本単元で身に付けた資質・能力を、分からないことを質問する際や、自分が話したいことを他者に伝える際に活用し、自己の学習や生活をよりよいものにしていくと考える。

3 単元の指導計画（6時間）本時は第5時

時間	各時間の目標				E
	A	B	C	D	
	生活元学習「校内合宿」を行うために必要な情報を施設の方に電話で聞くことを確認する。 ※手立て2-① 校内合宿と関連させ、単元を貫く課題意識を醸成する。				
1	どんな話し方をするとわかりやすいだろう。 電話をして相手に伝えるために、話し方の工夫が必要であることに気付く。【発言(思・判・表現)】	メモをとると、後で確認することができる。 電話をして話を聞くためには、聞き方や聞かせることを記録することを必要であることに気付く。【発言(思・判・表現)】	聞きたいことは、一つずつ質問すると伝わりやすい。 聞きたいことについて一つずつ答えてもらえば、自分たちもメモをとったりしやすい。 聞きたいことを一つずつ項目にまとめ、質問メモや聞き取りメモを作成することができる。【発言(思・判・表現)】	うりインクレビューするために、聞きたいことや説明するべきことをまとめることが必要だ。 電話をして話を聞くためには、聞きたいことやこちらから説明するべきことを整理することが必要であると気付く。【発言(思・判・表現)】	聞きたいことを聞くためには、何を話せばよいだろう。どんな話し方をすると伝わりやすいだろう。 電話をして相手に伝えるために、話し方の工夫が必要であることに気付く。【発言(思・判・表現)】
2	必要な情報を聞き出すための話し方の構成を考える。 ※手立て2-② 目標達成のための意見交流をすることで協働的な学びの必要感を生み出す。 電話で話す時には、あいさつや名前を名乗ると気持ちよく相手と話せそうだと感じることが出来る。【発言(思・判・表現)】	聞きたいことは、一つずつ質問すると伝わりやすい。 聞きたいことについて一つずつ答えてもらえば、自分たちもメモをとったりしやすい。 聞きたいことを一つずつ項目にまとめ、質問メモや聞き取りメモを作成することができる。【発言(思・判・表現)】	自分たちが聞く立場であったら、どんな風に話してほしいだろうか。 全体を通してはつきりと話し、大事な言葉はゆっくりに強調して話しと伝わりやすい。 自己紹介や要件を伝える原稿を作り、話し方の工夫を書き入れる。速さや強調を視覚的に話し方の工夫を考え、工夫が表れるように意識して話すことができる。【発言(思・判・表現)】	要件はできるだけ短い文章で伝えると分かりやすい。聞きたい項目ごとに区切って質問するとよさそうだと感じることが出来る。【発言(思・判・表現)】	電話で話す時には、相手とつながっていることを確認するために「もしも。」と問いかけたり「はい。」と相手を打ったりするとよい。 電話先の相手を意識して、相手を打つことができる。【発言(思・判・表現)】
3	相手に伝わりやすい話し方の工夫について考え、話し方を確認する。 話し方を確認するために、口をはっきり開けて、適切な速さで話すことができる。【発言(知・技)】	メモの取り方を確認する。 聞き落とさないようにするには、聞きたいことの中心となる語句に気を付けて聞くことができる。【発言(思・判・表現)】	話し方を確認するために、口をはっきり開けて、適切な速さで話すことができる。【発言(知・技)】	質問するための原稿を作り、話し方の工夫を書き入れる。中心となる言葉は忘れられないように強調して書くことができる。【発言(思・判・表現)】	より伝わりやすい話し方をするために、適切な文節で区切り、大事な言葉はゆっくりに強調して話すことよさそうだと感じることが出来る。【発言(知・技)】
4	相手に伝えるためにより話し方や聞き方を確認する。 話し方を確認するために、口をはっきり開けて、適切な速さで話すことができる。【発言(知・技)】	話し方を確認するために、口をはっきり開けて、適切な速さで話すことができる。【発言(知・技)】	話し方を確認するために、口をはっきり開けて、適切な速さで話すことができる。【発言(知・技)】	話し方の工夫を意識して、要件を話す。適切な文節で区切り、大事な言葉は強調して話すことができる。【発言(知・技)】	話し方の工夫を意識して、要件を話す。適切な文節で区切り、大事な言葉は強調して話すことができる。【発言(知・技)】
5	施設に電話をかけ、必要な情報を聞く。 ※手立て2-② 目標達成のための意見交流をすることで協働的な学びの必要感を生み出す。 3の声で、口を大きく開けてあいさつや自己紹介をする。 3の声ではっきり話しと相手は聞きやすい。 評価規準は本時の指導計画に記載 ※手立て2-③なぞできたのを聞き、成長をメタ認知できるようにする。	質問の答えをメモをしながらかく聞く。 自分たちが必要な情報はなんだろう。キーワードを聞き逃さないようにしよう。 評価規準は本時の指導計画に記載 ※手立て2-③同左	考えた質問に対して、相手がどのように答えるかを予測する。自分たちからこの質問に何と答えるだろう。全体の構成を確かめ、必要に応じて聞き返したり繰り返したりしながら、情報を整理する。不確かな時は、確認が必要だ。 評価規準は本時の指導計画に記載 ※手立て2-③同左	考えた質問に対して、相手がどのように答えるかを予測する。自分たちからこの質問に何と答えるだろう。全体の構成を確かめ、必要に応じて聞き返したり繰り返したりしながら、情報を整理する。不確かな時は、確認が必要だ。 評価規準は本時の指導計画に記載 ※手立て2-③同左	文節、速さ、抑揚に気を付けて要件と質問を話す。電話の相手も、メモをとる友達も聞きやすいように、丁寧に話そう。 評価規準は本時の指導計画に記載 ※手立て2-③同左
6	聞き取った情報を学団の友達に報告をする。 ※手立て2-② 目標達成のための意見交流をすることで協働的な学びの必要感を生み出す。 学級名と、どの施設について調べたかを報告する。3の声ではっきりと話すことと伝える。【発言(知・技)】	他の学級の情報を、観点毎に聞き取ってメモを取る。 今何について話しているかに気を付けて聞くと、メモをとったりしやすい。 中心語句( ) キーワードに情報を聞き取り、メモをとることが出来る。【学習シート(思・判・表現)】	聞き取った情報を学団の友達に報告をする。 ※手立て2-② 目標達成のための意見交流をすることで協働的な学びの必要感を生み出す。 学級名と、どの施設について調べたかを報告する。3の声ではっきりと話すことと伝える。【発言(知・技)】	聞き取った情報を学団の友達に報告をする。 ※手立て2-② 目標達成のための意見交流をすることで協働的な学びの必要感を生み出す。 学級名と、どの施設について調べたかを報告する。3の声ではっきりと話すことと伝える。【発言(知・技)】	聞き取った情報を報告する。 相手に特に伝えたい情報を強調して話そう。 伝えたい情報を強調して話すことができる。【発言(知・技)】

#### IV 本時の指導計画

##### 1 目標及び評価規準

A	B	C	D	E
口や声の大きさを意識して話すことができる。	聞きたいことの中心をとらえ、重要な語句は何かを判断しながら聞くことができる。	聞きたいことの中心をとらえ、重要な語句は何かを判断しながら聞くことができる。	話の構成を確かめながら、情報を整理して話したり聞いたりすることができる。	正しい文節で句切ったり、大事なことを強調したりして、話すことができる。
リハーサルの中で、口を縦に開き、3の声で自己紹介を話すことができる。【知・技】	電話の場で、ポートとえさの料金と、1台に何人乗れるかを聞きとり、メモをとることができる。【思・判・表】	聞き取りの学習場面で、音声教材を聞きながら項目ごとに内容を聞きとり、メモをとることができる。【思・判・表】	電話の場で、相手の話を聞きながら、黒板に掲示した質問事項や返答するために必要な情報を指示することができる。【思・判・表】	電話の場で、正しい文節で句切りながら、強弱に気を付けて質問を話すことができる。【知・技】

##### 2 展開

	A	B	C	D	E
	<b>・学習活動</b> ○指導上の留意点 ※研究に関わる手立て <b>期待する子どもの姿</b> 評価評価の場面				
1 前時の学習の確認 (3分) ・前時の学習を振り返る。	学習の目的とこれまでの活動を学習計画で振り返る。 ・生活単元学習「校内合宿をしよう」の校外学習に向けて、必要な情報を電話でインタビューし、学団の友達に報告することを確認する。 ○学習する前に挙げられた不安を解決できるように学習を進めてきたことを想起できるようにする。 たかまつのいけの ポートやさんに でんわを かけて きいてみよう。	模範インタビューの内容を吹き込んだテープを聞いて、メモをとる学習をする。【原調】 ○一台ずつラジカセを用いることで刺激を減らし、自分のペースで学習できるようにする。 ・聞き取れなかった時には、「もう一度」の意思表示をしてから繰り返し聞く。 ○「もう一度」は確実に聞き取るようとしている姿の表れであることを伝え、称賛する。 <b>記号や数字を活用し、聞き取ったことを忘れないように短くメモをとっている姿</b> <b>聞き取れなかったことを曖昧にせずに、もう一度聞く姿</b>	相手の反応を予測しながら、現時点で足りない情報が何か確かめる。 ・相手から予測外の返答が来た時に、何と語ればよいかを考える。 ○積極的に評価しながら、D児の考えを尊重する。必要に応じて答え方の参考例をいくつか提示し、会話全体をシミュレーションしながら情報を整理する姿 ・A・E児と共に原稿の大事な言葉を確認する。 ○必要に応じてA・E児に手本を示すよう助言する。	文節に気を付けて、原稿を一人で読む。 ・大事な言葉に印をつけ、そこを少し強く読む。 ・教師（進度によってD児）に読んで聞かせる。 ○原稿を見ないで聞き、聞きやすかつたところを具体的に評価する。 <b>句点では一拍、読点では二拍間を開け、大事な言葉を強めに読む姿</b> ・A児と共に順序を確かめながら読み合う。	
2 本時の学習内容の把握 (4分)	口の聞き方の練習をする。 ・声の大きさを見ながら声の大きさを確認する。				
3 学習内容の理解 (12分)	よい話し方の視点を忘れないようにするために、はじめは教師が細かに声をかけ積極的に評価する。 ・原稿を繰り返し読む。 <b>かばさんの口、3の声を意識する姿</b>				
4 学習内容の交流 (7分)	教師と共に電話のリハーサルをする。【A・E見調】 ※手立て2-①協力的な学びの必要感を生む学習展開 ○分担当それぞれ役割が揃うことで目的を達成できることを確認する。「もう一度」を教えるので待ってください。」など、困った時の解決策もD児の考えから共有し、互いに協力して判断できるようにする。 ・学習を生かして自己紹介をする。				
5 電話をかける (9分)	<b>かばさんの口、3の声を意識する姿</b>	会話をよく聞き取りながら、情報を得られていないか、説明が不足していないかを確認する。【見調】 <b>注意深く聞き、友達に話すべき内容を指し示す姿</b> <b>必要に応じて自分で判断し、話す姿</b>			
6 ふり返りを行う (10分)	自分ががんばったこと、友達のおかげでできたこと、自分の成長の視点で振り返りを行う。 ○本時で身に付けた力や成長を、本時の場面と実生活に生かすことができるよう具体的な場面に具体的に挙げながら一人一人価値付ける。 <b>自分の伸びた力やどうして力を伸ばすことができたのかを考え、話す姿</b>				